

植	物	
防	疫	
講	座	

虫害編-26

ダイズのチョウ目害虫（ウコンノメイガ、マメシクイガ）の発生生態と防除

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業研究センター

しぶや かずき たけうち ひろあき
渋谷 和樹・竹内 博昭

はじめに

ダイズは加害する害虫種が多い作物である。葉や莢を加害するチョウ目害虫も数種類が知られている（日本植物防疫協会，1979）。この中からウコンノメイガ、マメシクイガについて発生生態と防除対策を解説する。これらの種は、ハスモンヨトウのように毎年広域的な対応を要する害虫ではないが、基礎的な過去の知見を把握しておけば多発生した場合に適切な対応が可能になると考えられる。

I ウコンノメイガ

ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis* (Scopoli) はツトガ科に属し、ダイズをはじめとしたマメ科作物の葉を加害する害虫として知られる。日本全国に広く分布するが、日本海側の特に北陸地方で多発することが多い（成瀬，2002）。国外では樺太，朝鮮，アムール，アルメニア，小アジア，台湾，スマトラ，ベトナム，インド，ロシア，ヨーロッパ等に広く分布する（日本植物防疫協会，1979）。

以下，その基礎的な情報について述べる。

1 基礎的生態

成虫は開長 25~30 mm の小型の蛾である。色は全体的に淡黄褐色で，翅には不鮮明な暗色の横紋がある。英語名は *mother of pearl moth* と言うが，その名の通り，翅には貝の真珠層 (*mother of pearl*) のような光沢がある。雌雄で外観上の差は少ないが，雄は雌に比べて腹部が細長い（図-1）。夜行性であり，日中はダイズの葉の裏にとまってじっとしている。卵の大きさは径約 1 mm で，葉脈に沿って卵塊で産み付けられる（図-2）。一つの卵塊あたりの卵数にはかなりのばらつきがあるが，1~2 卵の場合が多い（成瀬・新田，1985）。産卵直後は白色半透明だが，発生が進むにつれて濃い黄色となり，卵内部の胚も観察できるようになる（ROMANOWSKI, 1991）。幼虫の頭部は黄褐色，各体節は光沢のある緑色である（図-3）。糸を吐いて葉を綴ることで葉巻を作り，自身は其中で葉を摂食する。6 齢を経たのち葉で作った繭の中で蛹化する（図-4）。幼虫は機械的の刺激に対し，体をすばやく丸めて転がり逃げる反応を示すため（BRACKENBURY,



図-1 ウコンノメイガ成虫
左が雄，右が雌。

Ecology and Control of Two Lepidopteran Soybean Pests, *Pleuroptya ruralis* (Scopoli) and *Leguminivora glycinivorella* (Matsamura). By Kazuki SHIBUYA and Hiroaki TAKEUCHI

(キーワード：ダイズ，ウコンノメイガ，マメシクイガ，発生生態，防除)